2018 年度

点検・評価報告書
ーアセスメント結果の概要ー

教育学部

2018 年度　教育学部点検・評価報告書

「アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果の測定及び可視化を推進」

2019. 3. 5

※以下、アセスメント結果の概要のみ抜粋。報告書の全文は参考資料に掲載。

(3)学習成果の測定と可視化について

ここからは本年のメインテーマである「アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果の測定及び可視化」、すなわち学部のアセスメント・ポリシー並びにアセスメント・プランによる学習成果の測定・可視化の状況について述べる。

まず教育学部のアセスメント・ポリシー及びアセスメント・プランについて振り返る。

◎教育学部アセスメント・ポリシー(抜粋)

学習成果の点検に際しては、ディプロマ・ポリシーに謳う4領域の能力・資質の発達・変容をとらえるため、次のような多様な指標・ツールを用い、多面的・複合的に行います。また、点検結果を踏まえ、個々の授業改善にとどまらず、プログラム全体の改善・向上に努め、学部教員間の情報共有・合意形成を進め、改善に向けて真摯に取り組んでいきます。

《アセスメント指標・ツール》

【量的なもの】①GPA、②授業アンケート、③教員免許取得者数、④教員採用試験合格者数、⑤TOEIC 等の語学試験、⑥語学基準達成者数、⑦海外留学体験者数、⑧学部実施の学生調査、⑨大学実施の学生生活調査、⑩就業力テスト

【質的なもの】①AP 事業アセスメント科目における振り返り記述、②「学びの集大成」、③学校インターンシップ・教育実習に際しての外部評価、④卒業研究(サンプル調査)

【その他、補足的に適宜活用するもの】

①ジュニアペーパー評価、②海外研修効果測定、③LMS 上の学習ポートフォリオ、④大学適応調査(HPI,RCW など)およびその結果に基づく抽出聞取り調査、⑤IR 室管理の各種データ

これは学生の学習成果のアセスメントのために利用できる、あらゆる可能性が集合体として示されているものであるが、これらの指標やツールをどの時点でどのように用いるかについては示されていない。それを時系列的に展開したものが次のアセスメント・プランである。本報告書では、このアセスメント・プランの進捗状況について述べる。

◎教育学部アセスメント・プラン(概要)

- ステップ 1:学部 DP に明示された 4 領域にわたる 8 項目の学習成果達成に向けた取組み(授業科目)が、どのように配置・配列されているか、整理してカリキュラムマップとして示す。
- ステップ 2:科目の配置・配列の妥当性を学部として確認し、各科目担当者は当該科目を通じて育成・達成が期待される学習成果に配慮したシラバスを作成する。

・ ステップ 3:当該科目で好成績を上げるということは、DP の当該学習成果も認められるということになる。専門科目の GPA が高い学生は、学部の DP 要件を満たしている可能性が高いと推定される。
・ ステップ 4:授業アンケート及び学生調査を活用した定期モニタリングを行う。
・ ステップ 5:初年次教育、教職課程、書く力の育成等、各種プログラムに応じたアセスメントを行う。
・ ステップ 6:総括的に 4 年間の学習成果をアセスメントするために、卒業研究、学びの集大成、GPA や大学適応調査を基に抽出したサンプルからの聞取り調査を活用する。特に卒業研究においては、DP の 8 項目に関する評価ルーブリックを作成し、それに基づく達成度を検討する。

上記各ステップについて、今年度の状況を示す。

《実施状況》

・ ステップ 1:教育学科、児童教育学科それぞれの専門科目に対するカリキュラムマップを作成し、教育課程の体系性が可視化できるようにした。作成したカリキュラムマップは、2019 年度入学生から履修要綱に明示されるようになり、各学生の履修の参考にできるようになる。〔根拠資料:両学科のカリキュラムマップ及び 2019 年度入学生用履修要項〕【進捗度:A】
・ ステップ 2:科目の配置・配列の妥当性については、「科目担当者会」、「教科教育担当者会」において、学生の声も取り入れた形で検討が進められている。教科群としての目標や成果、個々の授業の効果等について議論が進められていることは大きな前進である。しかしながら、今のところ現状認識を深め、改善方法を議論している段階で、科目の配置・配列の妥当性について客観的に評価するレベルにはまだ達していない。

今後は履修要綱にカリキュラムマップが明示されたことにより、授業科目の系統性がより一層明確になり、検討が進めやすくなるものと考えられる。これに学生の授業評価を加えれば、DP の各項目と授業の配置、そして学生の学習成果について、数値に基づく判断が可能となり、妥当性の検討がさらに進むものと思われる。〔根拠資料:科目担当者会議事録、教科教育担当者会議事録、授業評価アンケート結果〕【進捗度:B】

・ ステップ 3:言うまでもなく、学生個人の指標としての GPA は多方面において活用されている。GPA の高い学生は DP の達成度も高いと判断することには妥当性があり、そうした判断のもと、教職課程には「GPA3.0 以上」という関門が設けられている。

しかしながら、学部や学科全体として、たとえば GPA の分布を統計的に処理して教育課程全体を見直すといった作業は行われていない。アセスメント・ポリシーにあるように、GPA データを活用してプログラム全体の改善・向上に努めることが課題である。〔根拠資料:学生の GPA 分布・推移〕【進捗度:B】

・ ステップ 4:ステップ 2 でも述べたように、授業アンケートの結果を活用してカリキュラム全体の分析・改善につなげるといった活動はまだ行われておらず、今後に委ねられている。

一方、学部学生調査の分析は着実に行われており、量的・質的分析がすでに 6 年にわたって蓄積されてきている。調査結果に基づく学生指導のあり方については教授会にて報告・検討が行われている。しかしながら、現在のところ学生の意識を知り、学生指導に役立てるという方向が主であり、教育課程改善のためのモニタリングとするにはまだ検討が必要である。〔根拠資料:学生調査項目および分析結果〕【進捗度:B】

・ ステップ 5:初年次教育については AP 事業のマイルストーン調査を行った。来年度にはキャップストーン調査が行われ、AP 事業への取り組みが完結するとともに、そこでの知見を活かした学部全体の授業改善への取り組みを始める予定である。

教職課程については、教員養成評価機構による「教員養成教育認定評価基準」及び「自己分析書作成の手引き」を活用した自己点検・評価に参加することが決定しており、早くも来年度には認定評価を受けるための文書作成に取り掛かることになる。これは全国の教員養成大学・学部が参加する大掛かりな認証評価にな

る予定であり、本学教職課程もこれまでの実績に基づき、さらなる改善のための機会としたい。

書く力については、2020 年度以降新カリで実施されるジュニア・ペーパー評価に基づいて行う予定である。〔根拠資料：AP 事業資料〕【進捗度：C】

- ステップ 6：卒業研究において DP 項目に基づくルーブリック評価を作成・活用することになっており、一部のゼミでは実施しているが、学部全体での共有・活用はまだこれからである。

  学びの集大成や学習成果のアセスメントのための聞き取り調査などは未実施であるが、卒業生に対する学生調査は実施しており、今後分析を行う予定である。〔根拠資料：卒業研究ルーブリック〕【進捗度：C】

これらの実施状況を、アセスメント項目に対応させて表によって示す。

アセスメント項目	アセスメント指標（実施時期）	アセスメント実施状況
【知識・理解】 教育学と心理学に関する基本的な知識を修得し、研究方法を理解する。	・ 対応する授業の成績による GPA の推移（各セメスター） ・ 卒業研究Ⅰ（ジュニア・ペーパー）の評定（第 6 セメスター）	・ GPA の推移は追っているが、分布の分析など学部全体での活用は不十分。 ・ 2020 年度からジュニア・ペーパーを活用予定。
【考える力】 諸問題を教育学的・心理学的な観点から思考し、解決方法を考える。	・ 対応する授業の成績による GPA の推移（各セメスター） ・ 授業アンケートの結果（毎セメスター） ・ キャップストーン科目（指定科目の開講セメスター） ・ 卒業研究Ⅰ（ジュニア・ペーパー）の評定（第 6 セメスター）	・ GPA の推移は追っているが、分布の分析など学部全体での活用は不十分。 ・ 教育課程改善を目的とした組織的利用は不十分。 ・ キャップストーン科目は 2019 年度実施。 ・ 2019 年度からジュニア・ペーパーを活用。
【行為する力】 教育学と心理学の研究方法を適切に利用し、諸問題解決に取り組む。	・ 対応する授業の成績による GPA の推移（各セメスター） ・ ・ キャップストーン科目（指定科目の開講セメスター） ・ 卒業研究Ⅱ（卒業論文、学びの集大成）の評定（第 8 セメスター）	・ GPA の推移は追っているが、分布の分析など学部全体での活用は不十分。 ・ キャップストーン科目は 2019 年度実施。 ・ 卒業論文のルーブリックを作成したが、共有・活用はこれから。学びの集大成は未実施。
【態度】 自己成長を追求し、価値に対する倫理性と他者の成長への責任感を持つ。	・ 学生調査の結果の推移（毎年 4 月・9 月） ・ ・ 卒業直前の学生へのアンケート（第 8 セメスター）	・ 学生調査は毎学期実施・分析しているが、教育課程の見直しにはつなげていない。 ・ 卒業時学生調査実施しており、今後分析を進める予定。